

PRESS RELEASE

横尾忠則 連画の河

TADANORI YOKOO: RIVER OF RENGA

会 期

2026年5月23日(土)―8月30日(日)

開館時間

10:00―18:00

※入場は17:30まで

休館日

月曜日

※ただし7月20日(月・祝)は開館、7月21日(火)は休館

主 催

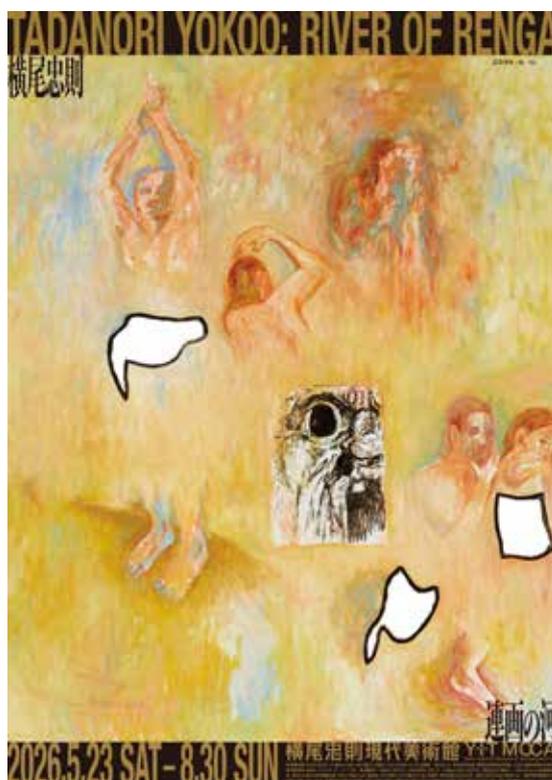
横尾忠則現代美術館(〔公財〕兵庫県芸術文化協会)
読売新聞社

協 力

ホテルオークラ 神戸

会 場

横尾忠則現代美術館



デザイン：横尾忠則

展覧会について

今年6月で90歳を迎える横尾忠則は、80代後半にして、新たな取り組みに着手します。「連歌」になぞらえて「連画」と名付けられた連作の端緒となったのは、故郷の兵庫県西脇で同級生たちと撮った記念写真でした。その写真をもとに描かれた《記憶の鎮魂歌》(1994年、当館蔵)を起点として、テーマにとらわれず描く、という挑戦が始まりました。

昨日の絵は、今日の横尾を思いもよらない方向へと導き、およそ2年で描き上げた総数は60点を超えました。2025年に世田谷美術館で公開されたこのシリーズを神戸でも紹介します。

横尾忠則 連画の河

1970年、横尾は雑誌『an・an』の企画で、写真家の篠山紀信と西脇を訪れます。24歳で上京して以来初めてとなる、10年ぶりの里帰りでした。そのとき篠山が撮影した同級生たちとの集合写真は、まず「西脇オデッセイ 横尾忠則故郷へ帰る」という記事となり、それから22年後に刊行された『横尾忠則 記憶の遠近術』に収められました。

以下の文章は、『横尾忠則 記憶の遠近術』出版に際し、横尾が篠山の写真に添えた一文です。同書には、横尾が敬愛してやまない小説家の三島由紀夫がのこした優れた作品論「ポップコーンの心霊術 横尾忠則論」も収録されました。

加古川に架けられた鉄橋の下に、よく父と魚釣りに来たものだ。その光景はいまでも夢に出てくる。ぼくの、故郷のなかでいちばん好きな場所に、幼なじみが集まった。十数年ぶりに会った懐かしい顔、顔…。久しぶりに集まると、なぜみんなこんなにいい笑顔になれるのだろう。

『横尾忠則 記憶の遠近術』（講談社、1992年）より



《記憶の鎮魂歌》
1994年
油彩、アクリル・布
181.8×227.3cm
横尾忠則現代美術館蔵

加古川の川べりで、鉄橋を背に、横尾の幼なじみが並んで立っています。《記憶の鎮魂歌》では、篠山の写真におさまる10名以上に、すでにこの世を去った友人たちの顔が、学生の頃の白黒写真を散りばめたかのように描き加えられています。横尾自身は、画面右側に亀として登場しています。

「連画」と音が通じる「連歌」は、上の句と下の句を複数人で交互に詠み連ねる和歌の形式です（ひとりで詠む場合もあります）。さまざまなルールにのっとりながら、即興的に展開する座の文学として、平安時代以降、広く行われてきました。連歌ならぬ「連画」のスタート地点、「発句（ほっく）」となったのが、この作品です。

横尾忠則 連画の河

「連画」は文字通り、連続した絵画です。2023年から2025年にかけて描かれた「連画の河」シリーズを構成する64点は、ゆるやかにつながり、全体でひとつの作品であるとも言えます。この展覧会では、画家が日々向き合ってきた制作のプロセスを、おおむね作品が描かれた順にたどることができます。それはまるで、画家とともに大河をゆったりと下っていくような体験になるでしょう。

このシリーズは、全体の構想を練り、何枚も先まで見通した上で作品を仕上げるというのではなく、一枚描いて、その絵から得た着想によって次の絵ができ、そこからまた次の絵ができるというふうに、次々と作品同士が関連しながら展開していくのが特徴です。一枚描かないと、次ができないのです。画家が一步踏み出すごとに、違う風景が広がっていきます。

横尾が本連作の直前まで取り組んでいた「寒山百得」シリーズの中心となったのは、100号（およそ162×130cm）のキャンバスでした。このたびの「連画の河」シリーズでは、それよりも大きな150号（およそ182×227cm）が大半を占めています。90歳を目前にした横尾が用いる色彩は、年を経るごとに明るさや鮮やかさを増し、絵の具の扱い方もますます自在になっています。大人の身体がすっぽりおさまるような大画面から、あふれる色彩や踊る筆致が感じられます。



《連画の河 2》
2023年
油彩・布
181.8×227.3cm
作家蔵



《クラインの壺》
2023年
油彩・布
181.8×227.3cm
作家蔵

横尾忠則 連画の河

横尾は、自らの絵画制作の原点を、幼い頃の模写だと語っています。また直近の「寒山百得」シリーズでは、自由人であることにとらわれてしまったといいます。「連画の河」においては、主だったテーマを設けることなく、自分が描いた絵を他人の絵のように眺め、絵に導かれるままに筆を走らせる、いわば自作を次々と模写することによって、主題にとらわれない制作を続けました。

「連画」の中では、さまざまなモチーフが入れ代わり立ち代わり姿を見せ、複雑に組み合わせられています。以前に描いた自作の反復（年代が早いものの例だと、1966年の「ピンクガール」シリーズに由来する、クロールで泳ぐ女性がいます）や、古今東西の芸術家の作品からの引用もあれば、最近の新聞や雑誌の切り抜きに着想を得たものもあります。



《連画の河を渡る 5》
2023年
油彩・布
181.8×227.3cm
作家蔵



《赤い恋》
2024年
油彩・布
181.8×227.3cm
作家蔵

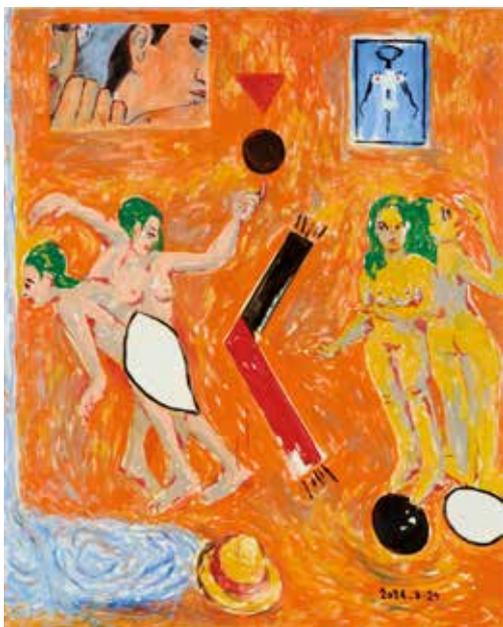


《雪の中の六方》
2024年
油彩・布
181.8×227.3cm
作家蔵

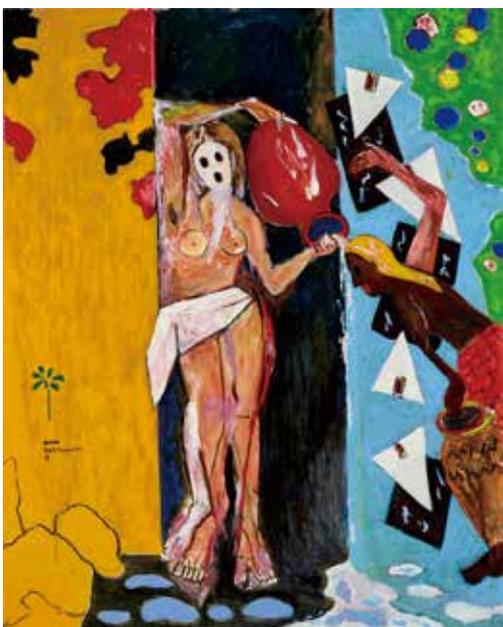
横尾忠則 連画の河

「連画」を順に見ていくと、繰り返し現れるモチーフがいくつも見つかります。たとえば、フランスの画家ポール・ゴーギャンが南洋タヒチで描いた作品《我々はどこから来たのか 我々は何者か 我々はどこへ行くのか》に登場する女性たちの姿が、あちこちに見え隠れします。私たちはどこから来て、どこへ行くのかというのは、横尾自身の問いでもあります。

後半を占める重要なモチーフが「壺」です。あるとき突然、大きな壺が登場します。全部で 64 点（連歌でいう発句となる《記憶の鎮魂歌》を含めれば 65 点）の大作が織りなす連作が行き着く先は、作者である横尾にも、すべて描き終わるまでわかりませんでした。ご覧になっている皆さんも、連画のゆくえを、ご一緒に見守ってみてください。



《タヒチの太陽》
2024年
油彩・布
162.1×130.3cm
作家蔵



《Water of Uncle Ingres》
2024年
油彩・布
162.1×130.3cm
作家蔵

横尾忠則 連画の河

当館4階では、横尾のスケッチブックを展示します。

「謎解き」するような気持ちでスケッチを見たあと、再び2階3階の展示室へ戻って、また新たな視点で作品をご覧くださいいただくこともできます。

河は上から下へと流れ、決して戻ることはありません（連歌も同じです）が、何度もぐるぐると会場をまわり、たゆたうように楽しめるのも「連画」の魅力のひとつと言えるでしょう。

【参考図版】
スケッチブックより



関連イベント

講演会「横尾忠則さんと、連画の河を下る」

講師：塚田美紀氏（世田谷美術館学芸員）

日時：7月20日（月・祝） 14:00－15:30

会場：当館オープンスタジオ、参加無料

キュレーターズ・トーク

講師：当館スタッフ

日時：6月20日（土）、7月18日（土）、8月22日（土） いずれも 14:00－14:45

会場：当館オープンスタジオ、参加無料

■担当学芸員が本展の見どころを分かりやすく解説します

※イベントの詳細や、その他のイベント情報については当館ウェブサイトをご覧ください

相互割引

■兵庫県立美術館（特別展またはコレクション展）のチケット半券→当館企画展が団体割引料金に

■当館企画展のチケット半券→兵庫県立美術館（特別展またはコレクション展）が団体割引料金に

※会期中のチケット半券に限り有効

基本情報

横尾忠則 連画の河 TADANORI YOKOO: RIVER OF RENGA

2026年5月23日(土)—8月30日(日)

開館時間 10:00—18:00 ※入場は17:30まで

休館日 月曜日 ※ただし7月20日(月・祝)は開館、7月21日(火)は休館

主催 横尾忠則現代美術館([公財]兵庫県芸術文化協会)、読売新聞社

協力 **ホテルオークラ 神戸**

観覧料 一般800(600)円、大学生600(450)円、70歳以上400(300)円、高校生以下無料

※()内は20名以上の団体割引料金

※ 障害者手帳等をお持ちの方は各観覧料金(ただし70歳以上は一般料金)の75%割引

※ 障害者手帳等をお持ちの方1名につき、介助者1名無料

※ 割引を受けられる方は、証明できるものをご持参のうえ、会期中美術館窓口で入場券をお買い求めください

出品点数 絵画 65点 ほか

※ 状況に応じて予定が変更になる場合があります。最新情報は当館ウェブサイトをご覧ください

※ 本展は予約制ではありません

お問い合わせ

横尾忠則現代美術館

〒657-0837 兵庫県神戸市灘区原田通3-8-30

tel. 078-855-5607(総合案内) fax. 078-806-3888

学芸担当:鈴木 慈子<suzuki_yoshiko@ytmoca.jp>

広報担当:早水 千尋<hayamizu_chihiro@ytmoca.jp>

画像データは当館ホームページ(<https://ytmoca.jp>)のプレス専用ページからお申込みいただけます
ホームページに掲載されていない画像は、上記連絡先までご請求ください